

サロベツだより



サロベツ学会会報 No. 2

2011年4月

目 次

サロベツ雑感

村元正己

1. 会員からのたより

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1) いっぱいの水 | 橘 治国 |
| 2) カキランの花 | 村元 正己 |
| 3) 世界湿地の日 子ども交流（インドネシア&サロベツ） | 稲垣 順子 |
| 3) サロベツでの野宿 | 高橋 英紀 |

2. 活動報告

- 1) 湿原再生のためのボランティア活動（その2）
ササ侵入地域の地下水位測定と稚咲内砂丘林ウォーキング
- 2) インドネシア、カリマンタンの子供たちとサロベツの子供たちの交流
- 3) 世界湿地の日記念イベント 「湿原の森探検 インドネシア&サロベツ」
- 4) 湿原再生のためのボランティア活動（その3）
雪の水資源調査と雪上ウォーキング

3. 会議報告

- 1) 役員会
- 2) 総 会
- 3) 事業報告・事業計画
- 4) 決算報告・事業予算

こども達の絵と編集者より

表紙の写真

中上：サロベツ保全ボランティアの皆さん（2010年7月、撮影高橋）→本文参照

中下：珍しいカキランの花（2010年、撮影村元）→本文参照

左上：冬の湿原に咲く樹氷（学会ブログ <http://d.hatena.ne.jp/sarogaku/> nobuさん投稿）より

左下：インドネシアの子供たちに贈る絵をかく子供たち（2011年1月、撮影高橋）→本文参照

右上：サロベツ湿原のタンチョウ（学会ブログ <http://d.hatena.ne.jp/sarogaku/> junkoさん投稿）より

右下：サロベツ湿原保全ボランティアに参加したボランティアの皆さんと北大インドネシア人留学生とその家族、サロベツ地域の子供たち（2011年3月、撮影高橋）→本文参照

サロベツ雑感

村元 正己

昭和34年に転勤族で豊富に来て、サロベツに魅せられて昭和36年に、新しく設立された商工会の経営指導員に仕事を変えて、豊富町に根を下ろしてしまいました。同年から始まったサロベツ総合開発調査に、社会部門の調査の聞き取りを受け、昭和38年からは観光協会事務局長を引き受け、サロベツ湿原の素晴らしさを多くの人に見せたくて、サロベツの名を町の観光の顔として取り上げました。湿原開発一辺倒の当時ですから私は異端児の扱いでした。昭和40年に稚内砂丘林が利尻礼文国定公園に指定されましたが、サロベツ湿原はまったく知られてなく、訪れる人は居ませんでしたので観光客誘致のため、稚内のフェリー会社のご好意で、利尻島の鴛泊港・礼文島の香深港に、サロベツの誘致看板を建てさせて頂き、港から湿原廻り豊富温泉までの、観光バスを運行致したりもしました。昭和49年に国立公園に指定されてやっと、サロベツも認められたと感じました。

私が50余年間見聞してきたサロベツの変遷は激しく、寂しく哀しく時には怒りを感じてきました。昭和30年代から40年代にかけて、大量のミズゴケ採取、漢方薬としてタチマンネンソウの採取、園芸業者と思われるヒメシヤクナゲの大量盗掘が行われた事など。

昭和49年に国立公園に指定されて、やっと安心できる環境ができました。サロベツは私達に何時も歓びや嬉しさそして癒しも与えてくれます。いつも新しい発見に満ち溢れています。湿原の中で40数年前に咲いていた、カキランの花やナガバノモウセンゴケの群落、コタヌキモやホロムイソウなど木道からは見られない花が、元の場所で確認できたことは嬉しかったです。

反面落合地区などの雪解け洪水で、1週間も道路が冠水し農家が、大変苦勞して来たことも見聞してきました。昭和40年にサロベツ放水路が出来て、道路も改良されて改善されました。湿原の自然保全と酪農の健全な発展の、相反するような課題に取り組まなければなりません。

サロベツには不思議が満ち溢れています。周辺に高い山が無いのに、丘陵の麓の至る所で豊かな湧水が見られます。中には名水として稚内など近隣の市町から、水汲みに来るが人大勢います。この地方の降水量よりも流水量が遥かに多いそうです。湿原の真ん中に突然日本一の浮き島が浮かぶ瞳沼が出現、100年振りと言われる丹頂鶴の飛来と雛の誕生など。



写真-1 春一番に咲くワタスゲ（左）とガンコウラン（右）の花（村元）

1. 会員からのたより

たよりー1

いっぱいの水

橘 治国

この秋、サロベツ湿原の東、幌延・豊富で、いっぱいの水を汲む機会があり、そして感じたことがあった。どちらも、人々の環境感そして将来の湿原保全に関係していると思った。

(その一)『下沼の水』

JR下沼駅の少し西側に、『下沼の水』と呼ばれる幌延名水の水汲み場がある。私は、法昌寺にお邪魔する前に、その名水をジョッキに一杯取り、うつくしい水だなと感じながら、温度計を入れようとしていたところ、バケツを持って順番を待っておられた奥様が、こちらを見て「最近この量、減ってきたのよ。」と一声。そして「稚内からの道路ができてから、すごく減った。」とコメントされた。「そうすると水質も変わりますね。」「心配だわ。」「・・・」と会話は続いた。水を汲み終わり、奥様はマイカーで帰られた。私も、そのまま自分の車に乗ったが、水温以外の測定を忘れてしまった。もう一度来るか、が調査結果。

(その二)『下エレコロベツ河川敷の水』

村元さんが頑張っておられる豊富自然学校での水質勉強会のお手伝いをしたときのこと。ペンケ沼に注ぐ手前の下エベコロベツ川で、豊富の町の排水がペンケ沼の汚染に影響しているかを調べようと思った。水質を調べるパックテストの簡易分析では、汚染を示すほどの強い色はつかなかった。小学生の一人が、河岸の水をジョッキに取り、リンのパックテストで鮮やかな青色をつけた。そして「きれいだね。」(汚染を見つけた。)湧き出てくる水は透明できれいだけれども、湧き出ているところは薄茶色に変色している。周囲を見渡すと一面の農地。畑地をくぐり抜けた水は、栄養を中心にいろんな成分を含んでいることがわかった。この濃度は、生態系への影響も考えられる。この説明は、小学生諸君には難しいな、と感じた。しかしじっくり自然を見させないと。

湿原東の都市生活や農業活動が、湿原環境と関係している例を、たまたま汲んだいっぱいの水から紹介した。人間活動が、地下水の量を変え、地下水質を変えた例である。これらが、長い時間で湿原生態系を変え、例えばササやハンノキを増やす原因にもつながる。しかし都市活動や農業・水産活動は、この地域の力！。将来を考え、身近な生活から変えてゆかないと。水の流れ、水の汚染を、じっくり考えてゆかなくては。

たよりー2

カキランの花 (表紙の写真)

村元正己

カキランは、47～48年前頃、自由に湿原の中を歩いていた頃発見し、その後公園指定などで入ることがむづかしくなり、3年前から天北塾の活動で調査をはじめました、昔見た場所に無事に花が有るか確認しました所、無事に昔通り道路北側約100m・丸山から西約200mの、高層湿原の中にぽつぽつと確認できました。合わせてナガバノモウセンゴケの群生地数箇所、コタヌキモ、ホロムイソウ、なども確認しました。また別の場所でコニアチドリを始めて見ましたし、あるはずが無い花も見つけました。

新しい木道から観察できる植物観察し、これからも観察調査を続けて行きます。

2月5日、サロベツに住む子ども達は、世界湿地の日記念行事として当学会高橋総務よりインドネシアの湿原のお話を聞きました。子ども達は映像に見入り、南国の自然や生き物達に興味津々です。そして南の国にも湿地や泥炭があり、一度火災が発生すると様々な被害が及ぶことを知ることができました。

現地の子ども達が描いた絵も鑑賞しました。絵には湖や乗り物、家族、友達などがありました。サロベツの子ども達もインドネシアに届ける絵を描きました。ほとんどが雪に関する絵でした。

どちらも、子どもの目を通しての自然や遊びが豊かに描かれています。

インドネシアとサロベツの子ども達、これからも交流が続きます。



写真-2 カリマンタンの湿原や子供たちのお話を聴く下沼法昌寺に集まった子供たち



写真-3 カリマンタンの子供たちに贈る絵を描いています。



写真-4 私はこの絵を描きました。写真を写して、カリマンタンの子供たちに紹介します。壁にはカリマンタンの子供の絵と顔写真が写っています。

その1 昭和38年(1963年)のこと

村元さんがサロベツに来たのが昭和34年とのことでしたが、私が初めてサロベツに来たのは、その4年後の昭和38年の7月でした。湿原なるものの存在すら知らなかった私でしたが、その広さに驚き、感激しました。そして幸いにもその原野に野宿する榮譽によくすることができました。国立公園の特別保護地区となつたいまでは全く不可能ですが、北大農学部3年の時、いわゆるサロベツ総合調査の特殊気象観測班の観測員として1年先輩の小林昌夫さんと1週間近くテント暮らしを楽しみました。

当時の気象観測機器のほとんどは手動・目視観測なので、朝6時から夕方6時まではアスマン乾湿計で気温と湿度を毎時観測。夜は3時間間隔ですから観測の3日間はほとんど寝る間がありません。それでも二人で、交代で仮眠をとりながら3日間頑張りました。最後の最後に、寝坊をして、当時特殊気象観測班の班長をしていた北海道農試の千葉 豪さんに起こされた失敗もありましたが、原野での野営が私の趣味になりました。観測の合間に、写した落合沼は満々と水をたたえた素晴らしい沼でした。2年ほど前にサロベツで開催された国際シンポジウムの時に再訪する機会がありましたが、どこが沼なのかわからないほど変貌していました。自然再生事業で落合沼が復元されるとのことなので、期待しています。

(つづく)



写真-5 昭和38年(1963年)夏 落合沼近くの野営テント



写真-6 昭和38年(1963年)夏 落合沼の全景

2. 活動報告

活動報告－1 湿原再生のためのボランティア活動（その2）

ササ侵入地域の地下水位測定と稚畛内砂丘林ウォーキング

日時：平成 22 年 7 月 3 日、4 日

場所：サロベツ湿原

札幌圏からの参加者は 16 名で、地元のボランティアも含めると総勢 24 名が参加して、サロベツ湿原特別保護区のササ群落拡大域で地下水位の測定を行いました。調査に先立ち、サロベツ湿原ビジターセンター内において、サロベツ学会の稲垣会長から活動の趣旨説明があり、村元副会長からサロベツ地域の自然環境について解説が行われました（写真 - 1）。引き続き高橋会員からサロベツ湿原のササ域拡大と地下水位の関係および地下水位の測定方法について説明を受けてから、ササ域に入り二人一組で、地下水位の観測を行いました（写真 - 2）。好天に恵まれたこともあり、全 66 地点の地下水位観測は順調に終了しました（写真 - 3）。当日夜はサロベツ学会役員らとともに夕食をともにしながら、サロベツ湿原の環境問題の説明ビデオを観てもらい、サロベツ湿原への理解を深めていただきました。（高橋英紀）



写真 - 7 事前に説明を聴く参加者の皆様



写真 - 8 二人一組で地下水位測定



写真 - 9 サロベツ湿原保全ボランティアの皆様、測定終了後に全員集合（7月3日）

翌日はサロベツ湿原西の海岸沿いに発達する砂丘林とその砂丘列間に点在する湖沼群地域でウォーキングを行い、一般には知られていないサロベツの貴重な景観に触れてもらうことができた（写真 - 4）。ウォーキング終了後、地域の主要な産業である酪農に立脚し乳製品を自家製造し販売している工場で、地域産業振興の状況を見学した（写真 - 5）。最後に、稚咲内海岸の地元レストランで、地元の食材を盛り込んだ昼食をとり解散した（写真-6）。



図 - 10 砂丘林をウォーキング



図 - 11 チーズ工房でお買いもの



写真 - 12 稚咲内砂丘のお花畑にて（7月4日）

活動報告－２ 世界湿地の日イベント「湿原の森探検 インドネシア&サロベツ」

時期：平成23年（2011年）3月7日（土）、8日（日）

場所：下沼法昌寺・サロベツ湿原センター

インドネシア、カリマンタンの子供たちとサロベツの子供たちが絵を通じて交流を始めました。カリマンタンには熱帯の泥炭地が広がり、そこにある森林にはオランウータンが棲んでいます。その泥炭地の一部は農業に利用されていますが、森林伐採の跡地がそのまま残されていたり、泥炭火災の跡がそのまま荒地となっていたりしています。そのような泥炭地を森林に戻す活動が日本のボランティアの協力のもとで始まっています。

その日本の植樹ボランティアの人たちが仲介となってカリマンタンの子供たちの絵とサロベツの子供たちの絵の交換が始まりました。

まず、平成22年11月にカリマンタンのタルナ小学校の3学年から6学年の子供たちが絵を描いて、それを下沼の法昌寺の日曜学校に通うサロベツの子供たちにも見てもらいました。そして平成23年2月5日にサロベツ下沼の1学年から6学年の子供たちの絵を描いてもらい、3月7日にカリマンタンの子供たちにも見てもらいました。カリマンタンの子供たちの絵は山、家、花が多く、サロベツの子供たちは冬だったので雪だるまや白い利尻富士がありました。言葉や画材が違ってもカリマンタンとサロベツの子供たちの絵は、同じような雰囲気の絵でした。

絵を意思伝達の道具として、カリマンタンとサロベツの子供たちの交流ができれば良いと思っています（写真は会員からのたより－3にあります）。

翌日はサロベツ湿原センターで、サロベツネイチャーゲームの会、環境省稚内自然保護官事務所、豊富町が主催する世界湿地の日イベント「湿原の森探検 インドネシア&サロベツ」を後援しました。サロベツ湿原センター前の森で雪駄をはいて雪上ウォークを楽しみました。お昼ご飯のときに湿原のいろいろな話をし、そのあと、カリマンタンの湿原についてスライドで説明しました。

（高橋英紀）



写真－13 サロベツ湿原センター近くの森をウォーキング



写真－14 昼食を食べながら湿原の話、そして食後に湿原の話を聴きました。

活動報告－3 湿原再生のためのボランティア活動（その3）

雪の水資源調査と雪上ウォーキング

- ・ 期間：平成23年3月26日（土）～27日（日）
- ・ 場所：サロベツ湿原（利尻礼文サロベツ国立公園）

新しい試みとして、湿原保全ボランティアに、一般市民の他に北大で学ぶインドネシア人留学生とその家族も加えて、湿原保全活動を実施しました。湿原は積雪で覆われているため地下水位観測などはできませんでしたが、湿原の水を涵養する積雪の量を測定する方法などを、雪研究の専門家である北大低温科学研究所の石井吉之先生に指導していただき（写真－8）、水資源としての雪の重要性を学びました。なお、この活動にはサロベツ地域の子供たちも参加しましたが、熱心に石井先生に質問するなど、子供たちの好奇心の強さが印象的でした（写真－9）。また、インドネシア人留学生が積極的に参加し、道北の湿原保全について学ぼうとする姿勢に感心しました（写真－10）。

二日目は、牧場の牛舎、牛乳の加工・生産工場、チーズ工房の見学を通じて地場産業の実態について学び解散しました。



写真－15 石井先生の説明に聞き入るインドネシア人留学生とその家族、地元の子供たち



写真－16 雪断面と子どもたちと留学生の皆さん



写真－17 地元の名シェフ、村元さんの料理を楽しむ留学生の皆さん

3. 会議報告

1) 平成22年度役員会が下記により開催されました。

場 所 天塩郡幌延町字下沼 81 法昌寺

開催日 平成22年6月13日(日) 午前10時～12時

会議次第

議長選出

議 題

- (1) 平成21年度事業報告
- (2) 平成21年度会計報告
- (3) 平成22年度事業計画
- (4) 平成22年度予算
- (5) その他

報告事項

- (1) 市民参加型サロベツ湿原保全グループ 第1回活動
- (2) サロベツ学会会報「サロベツだより」No-1 の発行
- (3) その他

2) 平成22年度総会が下記により開催されました。

場 所 天塩郡幌延町字下沼 81 法昌寺

開催日時 平成22年10月9日(土) 午前11時30分～12時30分

出席者：11名、委任状9名

議事録

議長選出

高橋会員(総務)から稲垣会長に議長をお願いする提案があり、異議なく了承された。

議 題

- (1) 平成21年度事業報告

高橋会員(総務)から平成22年10月9日現在の会員名簿(資料-1)の提出と会員数50名との報告があり、引き続き、平成21年度事業報告(資料-2)が行われた。議長が質疑を求めたところ特に質問・意見はなく、賛否につき議場にはかったところ満場一致で承認された。

- (2) 平成21年度会計報告

稲垣順子会員(会計)から平成21年度会計報告(資料-3)が行われた。引き続き、神谷会員(監査)から監査結果の報告がなされた。議長が質疑を求めたところ特に質問・意見はなく、賛否につき議場にはかったところ満場一致で承認された。

- (3) 平成22年度事業計画

高橋会員(総務)から平成22年度事業計画(資料-4)の説明があった。その中で、10月9日、10日に開催予定であった市民参加型湿原保全とウォーキング(道新野生生物基金)は参加者が予定数に達しないために、中止となったこと。代わりに平成23年3月26日(土)、

27日（日）に雪上ウォーキングを計画しているとの説明があった。村元副会長、からは雪上ウォーキングに関し、春先のかんじき（スノーシュー）での雪上ウォーキングは湿地溝では雪層を踏みぬく可能性があるのでは要注意との意見、佐々木伸宏会員からは、ある程度の数のかんじきあるいは歩くスキー用具の貸し出しは環境省稚内事務所で可能であろうとの意見が出された。その他、議長がさらに質疑を求めたところ特に質問・意見はなく、賛否につき議場にはかったところ満場一致で承認された。

（４）平成22年度予算

稲垣順子会員（会計）から平成22年度予算案（資料-3）について説明があった。中島会員より、年会費500円は安すぎるのではないかと。年会費1,000円としてはどうかとの意見がだされたが、稲垣順子会員から現在のところ年会費500円で運営が可能なので、特に値上げする必要がないとの意見がだされ、現行のままとすることになった。議長がその他の質疑を求めたところ質問・意見はなく、賛否につき議場にはかったところ満場一致で承認された。

（５）その他

- ・橘副会長より、地元からもっと多くの会員向け情報発信をしてほしいとの要望がだされた。それに対し、ブログを立ち上げるなどとの意見がでたが、インターネットを使わない会員も多いことから、検討を重ねることとした。

- ・次年度総会の開催日について4月下旬のサロベツビジターセンター開所式典、あるいは6月下旬の市民参加型湿原保全とウォーキングにあわせるなどの意見がでたが今後の検討課題とした。

（６）報告事項

- （１）市民参加型サロベツ湿原保全グループ 第1回活動（高橋会員より報告）
- （２）サロベツ学会会報「サロベツだより」No-1の発行（高橋会員より報告）



写真-18 ナガバノモウセンゴケ



写真-19 コタヌキノの花

神田長春写真集より

平成 21 年度（2009 年）サロベツ学会事業報告

1. サロベツ学会総会の開催

（1）日時：平成 21 年（2001 年）5 月 24 日 12 時－13 時

（2）場所：豊富町共同福祉センター(天塩郡豊富町東 4 条 3 丁目)

2. 談話会の開催

（1）日時：平成 21 年（2001 年）5 月 24 日 午前 9 時 30 分～12 時

（2）場所：豊富町共同福祉センター(天塩郡豊富町東 4 条 3 丁目)

（3）話題：「サロベツ研究でわかったことなど」について 9 話題

3. 第 9 回湿原ワークショップへの後援について

平成 21 年 7 月 4 日に開催が予定されている NPO 法人北海道水文気候研究所・環境クリエイト主催の第 9 回湿原ワークショップを後援した。

4. 湿原保全・再生活動を通じた環境教育の実施

5. 湿原再生のためのボランティア活動の計画と試行

第 1 回：平成 21（2009）年 11 月 27 日、28 日

6. 広報誌の発行

平成 22（2010）年 5 月、会誌「サロベツだより」を刊行し、会員に配布した

7. 上サロベツ自然再生事業の諸活動への協力

平成 22 年度（2010 年）サロベツ学会事業計画

1. サロベツ学会運営委員会の開催

（1）日時：平成 22 年（2010 年）6 月 13 日 10 時－11 時

（2）場所：天塩郡幌延町字下沼 81 法昌寺

2. サロベツ学会総会の開催

（1）日時：平成 22 年（2010 年）10 月 9 日 11 時 30 分－12 時 30 分

（2）場所：天塩郡幌延町字下沼 81 法昌寺

3. 湿原保全・再生活動を通じた環境教育の実施

3-1. 市民参加湿原保全とウォーキング（道新野生生物基金）

第 2 回：平成 22 年 7 月 3 日、4 日

第 3 回：平成 23 年 3 月

4. 広報誌の発行

内容：地域の話題や投稿原稿、市民参加湿原保全とウォーキングなどの活動報告等

時期：来年 3 月ころ

5. 上サロベツ自然再生事業の諸活動への協力

エコモーププロジェクトへの継続申請

平成 21 年度「学会活動に係る事業」会計収支決算書

単位：円 △：減

設立初年度「学会活動に係る事業」会計収支決算書	予 算	決 算	増減		備 考
I. 収入の部					
1. 財産運用収入	0	0			20 年度～5,000 円
2. 会費収入	21,500	17,500	△	4,000	21 年度～12,500 円
3. 事業収入	0	15,000		15,000	
1) 参加費	0	15,000		15,000	
4. 補助金収入	0	0		0	
5. 事業受託収入	0	0		0	
6. 繰越金	13,180	13,180		0	切手@80 円×74 枚 (佐藤吉一氏寄贈)
7. その他収入	0	37		37	2 円利息 35 円不足金
当期収入合計 (A)	34,680	45,717		11,037	
II. 支出の部					
1. 事業費					会場費、昼食代、コピー代
1) 総会・懇談会等の開催	20,000	24,535		4,535	
2) 会誌の発行	10,000	0	△	10,000	
2. 事務・管理費					
1) 通信・運搬費	2,000	0	△	2,000	
2) 文房具等消耗品	2,680	0	△	2,680	
当期支出合計 (B)	34,680	24,535	△	10,145	
当期収支差額 (A)-(B)	0	21,182		21,182	
設立時資産有高	0	0		0	
次期繰越収支差額	0	21,182		21,182	

平成 22 年度「学会活動に係る事業」会計収支予算書

単位：円

科 目	金 額	備 考
I. 収入の部		
1. 財産運用収入	0	
2. 会費収入	23,500	@500 円×47 人
3. 事業収入	0	
4. 補助金収入	300,000	道新野生生物基金
5. 事業受託収入	0	
6. 寄付金収入	0	(切手@80 円×74 枚繰越)
7. 繰越金		平成 21 年度より
当期収入合計 (A)		
II. 支出の部		
1. 事業費		
1) 総会・懇談会等の開催	20,000	会場費、資料作成、
2) 会誌の発行	10,000	印刷費 (紙代、インク代)
3) 市民参加保全事業	300,000	バス代 (@100,000 円×2 回) 竹竿・防虫帽・虫よけ・折り尺など
2. 事務・管理費		
1) 通信・運搬費	2,000	送料
2) 文房具等消耗品	2,680	封筒、ファイル
当期支出合計 (B)	334,680	
当期収支差額 (A)-(B)		
設立時資産有高	0	
次期繰越収支差額		



熱帯（カリマンタン）と冷温帯（サロベツ）に住む子供たちの絵、それぞれ20枚ずつです。

編集者から

★湿原センターがオープン。サロベツファンが増えることを期待しています。（稲垣紘順）

★家の横にギョウジャニンニクを見つけました。会誌発行祝いは天麴羅に決まり！（稲垣順子）

★2010 年度は結構行事が多かったので内容が比較的豊富になりました。ところで、「サロベツだより」は英訳すると「Letters from Sarobetsu」、サロベツ学会は「Academia Sarobetsu」となりますがいかがですか。
（高橋英紀）